

地域の力を糧に校歌で歌い継がれる豊かな自然を守り抜く 31 人

## 農林水産大臣賞 青森県 大間町立奥戸小学校

本州最北端に位置する青森県大間町。その南西部に広がる奥戸（おこっぺ）地区に建つ同校では、なだらかな山や津軽海峡に面した自然豊かな環境を守るために、地域に密着したさまざまな活動に取り組んでいる。2005 年から開始したのが、「天狗山登山」。同校から歩いて約 40 分の場所にそびえる天狗山は、奥戸のシンボルとして古くから地域に親しまれている。雪が解けた春先、冬期間雪に埋もれていたポイ捨てごみを回収しながら登山に励む、年 1 回の恒例行事だ。その 2 年後からは、地域を流れる「奥戸川」の源流を辿ってごみを拾う活動も始めた。奥戸川は、住民の飲料水になる貴重な川で、地域にとって欠かせない。その源流を探索することで、水の大切さや環境保護の重要性を体感している。

こうした児童の取り組みを積極的に支えるのが、地域の自然保護ボランティア団体「川蝉（かわせみ）会」だ。天狗山登山では、ごみ回収活動とともに、植物の生態について説明したり、児童の安全誘導に務めたりなど、学校にとって得がたい存在となっている。奥戸川の源流体験においては、途中の林道で植林や木の年輪、砂防ダムの役割など、フィールドワークならではのアクティブな講義に発展。また、奥戸川ではイワナの稚魚放流体験も行う。放流後、川蝉会の指導の下、児童が生きた魚を素手でさばいて調理し、食べながら自然や命の重みについて考えを深める。

川蝉会会長の増山渉さんは、「体験活動を通じ、命を育む自然を守りたいという豊かな気持ちが芽生えてくれればうれしい」と期待を寄せる。その思いに呼応するように、児童は奥戸の町や自然との関わり方について率先して考えるようになった。川蝉会から学んだことは、ポスターや新聞にまとめて発信し、地域の自然を積極的にアピールしている。今年、奥戸漁港を中心とした清掃活動を高学年が企画、全校で実施するイベントに広がった。

全校児童数 31 名の小さな学校だが、地域の力をバネに、豊かな自然を未来へとつなぐその姿は、校歌に歌い継がれる天狗山や奥戸川のように、力強く頼もしい。



### 青森県 大間町立奥戸（おこっぺ）小学校

学校長：津幡 亨（つばた きょう）

児童数：31 名（2020 年 11 月末現在）

住所：青森県下北郡大間町大字奥戸字館ノ上 96-69

電話：0175-37-2108

アクセス：下北交通「奥戸小学校前」バス停より徒歩数分

上左：天狗山登山でごみ回収、右：道沿いに立つ手作りの看板、2 番目：砂防ダムの役割を知る、3 番目左：自分で調理したイワナで自然や命の恵みを実感、右：川蝉会から学んだことを新聞にまとめて掲示、下：児童手作りの環境標語は住民がドラム缶ペイントして林道に設置